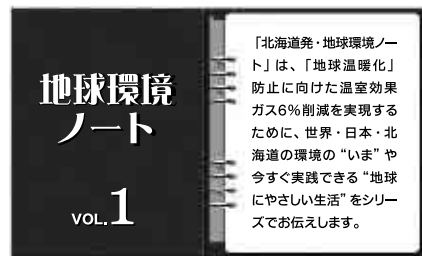




HOKKAIDO! ECO

地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を
地球にやさしい・エコプロジェクト

企画制作／北海道新聞社広告局



1kg



シリーズ1回目のキーワードは“1kg”。

日本が京都議定書で約束した温室効果ガスの6%削減に向けて、国民1人・1日あたりのCO₂削減目標として提案されているのがこの1kgです。家庭でのCO₂削減目標は年間で約3700万t。CO₂を削減するために「地球環境ノート」をヒントに毎日の生活を少しだけ見直してみてください。地球の未来のために「目指せ、1人1日1kg」。道民みんなで取り組みましょう。

1 1kgのCO₂ってどれくらい?

1kg＝サッカーボール100個分
1人1日あたりの削減目標である“1kg”のCO₂を体積にすると約500ℓ。一般的なサッカーボール（直径22cm）に置き換えれば約100個分になります。100個分と聞くと「えっ、そんなに多いの?」と驚くかも知れませんが、実は人間が1日の呼吸で排出するCO₂の量もおおよそ1kg。1kgのCO₂というのは、意外と身近な数字なのです。

1年で2044億個分のCO₂を削減
もし4人家族が1人1日1kgのCO₂を減らせば、1日あたりの削減量をサッカーボールにたとえると4人×100個＝400個分。1年365日で14万6千個分のCO₂が削減できることになります。また北海道の人口は約560万人（平成19年6月現在）ですから、道民一人一人が1日1kgの削減に取り組めば、1年で2044億個分（ℓ）のCO₂が減らせるのです。

2 1kgのCO₂削減ってたとえば?

エネルギーや資源を使うたびに……
私たちは電気やガス・水道などを毎日使っていますが、これらのエネルギーや資源を使う過程でもCO₂が発生します。たとえば火力で電気を発電したり、お湯を沸かすためにガスを燃やしたときはもちろん、水道水の送水にも大量の電気を使うので、CO₂の排出は避けられません。またペットボトルなどの石油製品をつくるときも同じことがいえます。

毎日の省エネ&省資源でCO₂削減へ
CO₂削減への近道は、毎日の省エネ&省資源を徹底することです。身近なエネルギーや資源との付き合い方を見直し、小さなことから実践していくだけで、CO₂は確実に減らすことができます。

くらしの中の“1kgのCO₂”って?

- 500mlのペットボトル（容器）を7本作る時
- 都市ガスのコンロを強火で使うなら約80分
- お風呂に給湯するなら約1回分（約200ℓ）
- 1800ccの自動車なら約3kmの走行

3 北海道のCO₂は全国の1.3倍。

北海道のくらしとCO₂の関係
北海道に暮らす私たちにとっても、1人1日1kgのCO₂削減は大きな課題です。特にこれからの時期、暖房機器を使う期間が長いので、道民1人あたりのCO₂の年間排出量は3.62tと、全国平均（2.69t）の約1.3倍にもなっています。また全国の都道府県の中でもっとも面積が大きく、自動車の利用率が高いのも原因の一つです。

「-9.2%」を目指す道の取り組み
北海道は2000年6月に「北海道地球温暖化防止計画」を策定。道内のCO₂排出レベルの高さや将来的な増加率にもつき、2010年度の温室効果ガスの削減目標を1990年度比で「-9.2%」に設定しています。また来年のサミット開催に向けて「北海道環境宣言」を国内外に向けて発表・発信する予定です。

4 みんなで目指そう マイナス1kg

1億2500万人×1年×「-1kg」＝?
あなたが「1人・1日・1kg」のCO₂削減に取り組めば、1年間で365kgのCO₂が減らせます。これを日本に住む1億2500万人（平成19年4月現在）が実行すれば456億kg＝4560万tの削減になり、家庭でのCO₂削減目標である年間3700万tを達成することができるのです。京都議定書の約束まで、あと約5年と3カ月。いま私たち一人一人の力が求められています。

あなたも「チャレンジ宣言」をしよう!
環境省が推進するプロジェクト「チーム・マイナス6%」では、公式サイト上で「1人・1日・1kg CO₂削減チャレンジ宣言」を受付中です。身近なCO₂削減メニューの中から実践できるものを選んでクリックすれば、画面に宣言カードが表示されます。あなたもチャレンジ宣言をして、くらしの中から地球温暖化対策に取り組みましょう。

チャレンジ宣言はこちらから⇒<http://www.team-6.jp/>

監修／小野有五（北海道大学・大学院 地球環境科学研究院教授） ※参考資料：環境省「1人・1日・1kg」宣言のサイト。北海道「2003年度（平成15年度）の道内の温室効果ガス排出実態について」

はじめよう
「地球にやさしい生活」

-1kg

こまめな消灯でCO₂を減らそう



CO₂削減のために、毎日の省エネはとても大切。そこで気をつけたいのが、お部屋の照明のこまめな消灯です。家庭の電気製品の中でも、特に「つけっぱなし」が多いのがコレ。お部屋にいるときだけスイッチを入れ、使い終わったらすぐに消す、を心掛けましょう。また白熱電球を電球型蛍光灯に替えると、消費電力を約1/5に抑えることができます。

知ってましたか? “待機電力”

待機電力とは、電気製品を使っていないときでも消費されている電力のこと。タイマー機能付きのテレビやビデオ、料理のときしか使わない電子レンジも、コンセントにつながっている間は電気を使い続けています。しかもこの待機電力の合計は家庭の電力消費の約10%にもなり、決して無視できないレベルです。対策は使っていないときに電源プラグをコンセントから抜くこと。使うたびに抜き挿しするのはひと手間なので、まずは使用頻度の低いものからやってみましょう。スイッチ付きのコンセントを使ってみるのも一案です。

※参考資料：チーム・マイナス6%「あかりをきっかけに温暖化防止を考えるサイト」<http://www.team-6.net/akari/03.html>

小野有五の伝言板



トータルアドバイザー
小野有五氏（おの・ゆうご）
北海道大学・大学院
地球環境科学研究院教授

北海道洞爺湖サミットに向けて

来年7月、洞爺湖で開かれるG8サミット。その第1のテーマはCO₂の削減です。議長国である日本は、まずお手本を示して会議をリードしなければなりません。でも「北海道は1人当たりのCO₂排出量が全国ワースト1」と聞いたら、ちょっとがっかりですね。どうすればいいのでしょうか?

会議場やプレスセンターのエネルギーをソーラー発電でまかなう、という案も出されています。北海道は風力発電では全国一。これを機会に自然エネルギーをもっと使うようにしましょう。あとに危険なものを何も残さない自然エネルギーが、北海道にはいばんで適しているのではないのでしょうか。

でも、「もっとも効果的な発電は省エネだ」といわれます。陽がさしこんで明るいのに蛍光灯がついていませんか? 誰もいない部屋に電気がついていませんか? 家でも学校でも職場でも、まだまだCO₂を減らせるはず。自販機は確かに便利ですね。でもそれを減らしただけでどれだけCO₂が減らせるか、イマジンしてみましょう。

小野有五